

平成 24 年度第 2 回神経・筋疾患セミナー

「神経難病患者の転倒防止」を終えて

木々もすっかり色づき、日々寒さを増す中、11月10日（土）当院第1会議室で、今年度2回目の神経・筋疾患ケアセミナー「神経難病患者の転倒防止」を開催いたしました。

今回も、地域で在宅ケアに関わっておられる保健師・看護師・理学療法士・ケアマネージャーの皆様にご参加をいただきました。

2年ぶりに「神経難病患者の転倒防止」をテーマに取り上げました。今回は、国立病院機構東名古屋病院神経内科の齋場郁子先生と、篤友会リハビリテーションクリニックの鳴尾彰人先生を迎え、ご講演いただきました。

齋場先生は「神経難病患者の転倒防止」という題で、厚生労働省研究班の研究データをもとに神経筋疾患の疾患別の特徴、それに対する転倒防止対策の具体的な取り組みについてお話しいただきました。在宅で転倒された患者様の多くは寝室・居間で転倒されており、次いで庭での転倒が多いというデータがありました。歩き出しや方向転換時にバランスを崩して転倒されることが多いです。転倒を防止するためには①居住環境を整えましょう②トイレや入浴の時は目を離さないようにしましょう③一度説明したことも、声かけは念入りにしましょう④トイレは時間で促してみましょう⑤屋外は付き添ってもらいましょう⑥ケガが最小限になるように心がけましょう。このような転倒予防介入を行うことによって、転倒の件数を減少することができます。在宅での転倒は、重大なけがや障害を起こす傾向にあります。患者様本人、ご家族も巻き込み、多職種がチームとなって関わることが重要というお話でした。

鳴尾先生は「転倒防止のための在宅での工夫」というテーマでのお話でした。はじめに参加者がグループになって自己紹介をし合い、和やかな雰囲気になってから始まりました。事例を通して実際に在宅でどのような介入をされたかお話いただき、疾患によっては手すりがあることでかえって転倒のリスクが高くなることもあり、個々に合わせた介入が必要であることなど、今まで気づかなかったことも多くありました。また履物の重要性を理解するために、実際にスリッパに履き替えて実験をして、体感することができました。

参加者からは講演内容はわかりやすく、今後役立てていけるという声を多くいただきました。これからもこのような研修を継続してほしいという、うれしいお声もいただきました。

